



たきいNOW



 関西医科大学附属滝井病院

たきいNOWとは？

たきいNOWは、地域の皆様に滝井病院の「いま」をお伝えし、当院が提供する医療へのご理解を深めていただくことを主旨として発行しております。

コンテンツ

- ☆ 2013 さらなる高みを目指す附属滝井病院
- ☆ 新しい透析センターについて
- ☆ PETセンターについて
- ☆ 乳腺外科について
- ☆ 乳房再建について
- ☆ 医療安全管理部の活動

2013 さらなる高みを目指す附属滝井病院



関西医科大学附属滝井病院
病院長 岩坂 壽二

附属滝井病院は2016年の新病院完成に向かって、診療体制・機能の充実速度を上げていきます。その目的は、急性期医療センターとして、先進医療を担う医療機関へさらなる成長を遂げることにあります。

診療体制・機能の充実として最初にご紹介するのは心臓血管病センターの再構築です。聖路加国際病院で高齢の皇室宮様の大動脈弁狭窄症を手術した川副浩平特命教授、冠動脈バイパス術と大動脈瘤、大動脈解離を得意とする名古屋第二赤十字病院心臓外科副部長から転入した高味良行教授ほか2名の心臓外科医による外科チームがCCU、救命救急センターと帯同して、心臓救急の幅を大きく拡げることです。人工心肺装置、検査機器すべてを最新のものに整備し、また、1,500例以上の人工心肺操作を無事故で続けている臨床工学技師も新たに加わりました。心臓外科の外来はすでに診療を開始していますが、7月からは“断らない心臓外科”をもっとうに手術が開始されます。

次に、5月から透析センター、PETセンター、及び乳腺外科を開設いたしました。

透析センターは、今までの急性期・導入透析に加えて、維持透析ベッドと腹膜透析の更なる充実です。維持透析は種々の合併症を有する患者さんの透析治療に当たります。

また、がんの発見・重症度判定を得意とするPETセンターは、最新のPET/CT装置を備え、卓越した技能を持つ放射線技師とPETを知りつくし、読影に優秀な眼を持つ宇都宮啓太准教授が当たっています。自費料金も近隣医療機関では最も低額に抑えました。附属天満橋総合クリニック（旧OMMメディカルセンター）との健診・ドックにも至便性を持ったプログラムを用意しています。

さらに、乳腺外科においては、近畿地方で最初の最新鋭3Dマンモグラフィーを女性技師が操作し、評判の高い乳腺外科の山本大悟科長（講師）と乳房再建術の名人と謳われる形成外科の田中義人助教が強力なタッグを組んで、乳がん治療に当たります。

附属滝井病院は、これからも安心・安全の医療を追求し、期待される最新・最高の医療機器とスタッフを備えるべくステップアップして行きます。

最後に、緑のエプロンおじさんが外来1、2階にいます。困ったこと、お手伝いすることがありましたら、どうぞお声掛けしてください。

新しい透析センターについて



透析センター長 西川 光重 教授



透析副センター長 正木 浩哉 教授

腎臓の機能が落ちてきて生命に危険が及ぶほどになると、「血液透析」という人工腎臓が必要になります。糖尿病や高血圧などの全身の病気や、腎炎などの腎臓自体の病気がその原因になります。透析患者さんは年々増加し、現在、日本には約30万人の患者さんがおられ、このうち、大阪府内には約2万2千人の方がおられます。

透析患者さんには全身的なケアが重要です。また、内科系・外科系を問わず多くの合併症に罹患される事がありますので、このような事態に対しての入院透析も必要です。

透析患者さんの様々なご要望に応えるために「透析センター」が本年5月に新設されました。病棟7階・南側という見晴らしの良い快適な場所にあり、これまで同様、血液透析の導入や各種合併症発症時の入院時透析を行うとともに、通院可能な患者さんの維持透析も行っています。透析ベッド数を増やすとともに、オンライン透析など、透析機器や透析液水質も一段と向上させて、透析患者さんの健やかな生活向上に更に役立てるように努力しています。

当透析センターの特徴の1つとして腹膜透析の充実に注力をしていることが挙げられます（5月1日付、産経新聞朝刊にも取り上げられました）。腹膜透析の良い点は血液透析に比べて、通院する頻度が少ないことや、心臓にかかる負担が少ないなど身体に優しいことなどです。当センターでは、血液透析や腹膜透析の長所・短所を検討できる選択外来も設けています。

地域の腎不全患者さんの急性期から慢性期までいつでも「真に頼りになる透析センター」を目指しています。血液透析・腹膜透析の知識や経験の豊かなスタッフが万全の体制でお待ちしていますので、これから透析を開始される予定の方や、すでに透析をされている方で腹膜透析や通院透析に興味や関心のある方は、地域医療連携部（06-6993-9444）までお気軽にお問い合わせ下さい。



乳腺外科について



乳腺外科科長 山本大悟 講師

わたしは従来滝井病院で乳腺外科診療をおこなっておりましたが、平成18年1月枚方病院開院にて異動。そして平成25年5月より滝井病院の乳腺外科科長として診療をさせて頂くことになりました。

新滝井病院グランドオープンの準備として約7年ぶりの再開となりました。



滝井病院ならではの特征として

①3Dマンモグラフィ

日本で、3番目に導入した最新の機械です。

2方向からの撮影による3D化により、がんの所見である構築のみだれとただの乳腺の重なりなどが判別できるようになり、さらに確実な乳がん検診が可能となります。



②マンモトーム生検 「エリート」

従来、マンモトーム生検は、座位で施行しなければならなかったため、施行時間が掛ることや気分不良になることがしばしばありました。今回、導入した最新のマンモトームは側臥位になることで、より安全にかつデジタル化することでより迅速に行うことができるようになりました。関西医大附属病院の中でも、当院が初めて導入しました。

③乳管内視鏡検査

乳頭分泌はがんの初期症状に1~2割程度みられ、その診断には乳管内視鏡が必要です。関西圏では、当院と神戸の一施設の2院のみ施行しています。また、症例数は当院が全国でもトップクラスです。

④同時再建手術

最近のがん治療の進歩の中に再建術があります。しこりが小さければ乳房温存術が可能ですが、切除範囲が広ければ、乳房切除術（乳房を全部取る手術）が避けられません。当科では、形成外科と合同で、乳がんの手術と同時に乳房を再建する、一次的乳房再建術を行っています。術後、乳房温存術で変形がきたしたような場合でも、ご希望があれば乳房の再建が可能です。

⑤乳がんの薬物療法

乳がんの術前・術後には化学療法、ホルモン療法、ハーセプチン療法を総合的にあわせて、外来化学療法センターにて治療をおこないます。また、大学病院ではめずらしい温熱療法を組み合わせることにより再発乳がんの治療をより効果的におこなうことができます。

⑥患者会

心のケアとして、患者さんの会（ひまわり）を2001年に発足し、患者さん同士が、体験談などを通して、情報交換をしたり、お互いの友好を深めたり出来るように活動しています。

今後も、今までの経験を生かし地域医療に貢献していきたいと思っていますのでよろしくお願い申し上げます。

乳房再建について



形成外科 田中義人 助教

乳房切除後の変形をできるだけ手術前の乳房の形に戻す事を乳房再建と言います。

乳がんとその周りを部分的に切除する乳房温存術（乳腺部分切除術）の場合、この部分のみ足してあげれば形は改善します。当院ではできるだけ体に負担が少ない、周囲の脂肪を血流のある状態で回転させて再建を行います。

次に乳腺をすべて切除する場合ですが、再建する材料が大きく2つに分けられます。一つはマスコミによく取り上げられる人工乳腺（シリコンインプラント）です。この方法のなんといいても良い点は他に傷がつかせませんし、痩せた方にも大きな乳房ができます。

最近一部のインプラントが保険適応となり、当院も使用可能な認定施設となる予定です。

もう一つは自分の組織を使う方法です。

当院では、背中中の広背筋皮弁や腹部の脂肪を利用して再建します。

この方法は温かく自然な乳房を再建することができますし、術後のメンテナンスはほとんど必要ありません。ただし、材料に限りがありますので痩せた方には大きな乳房は作れないことがあります。

いずれの方法にも一長一短ありますので、十分話し合った上で納得していただいた上で術式を決定いたします。

また、すでに乳がん手術を受けた方で乳輪乳頭がない場合も、再建することが可能ですし、乳房温存術後の放射線治療によって凹みが目立って気になる方も、比較的体に負担の少ない手術で改善させることも可能です。

大浴場になかなか入る勇気がなく家族風呂で我慢されている方や、これ何とかならないかな、と悩んでいる方がいらっしゃいましたら、是非形成外科にご相談下さい。



PETセンターについて



PETセンター長 宇都宮 啓 太 准教授

関西医科大学附属滝井病院 PET センターは、平成25年5月より最新の PET-CT 装置を導入しスタート致しました。

PET-CT 検査〔陽電子放射断層撮影法(Positron Emission Tomography)〕は、「苦痛がほとんどなく一度の検査で全身を調べることができる」、「小さながんも発見することができる」として、近年注目されている検査です。被曝は、胃の透視検査と同程度かやや多いぐらいで全く心配はいりません。検査薬の F-18 FDG はブドウ糖とおなじ性質を持つ薬剤であり、がん細胞は通常細胞に比べて3~8倍のブドウ糖を消費する性質を利用して F-18 FDG の体内分布を、同時に撮像された CT 画像に投影して診断します。従って、がんの早期発見・診断には大いに威力を発揮します。加えて、PET-CT 検査は、がん以外にも、アルツハイマー型認知症や心筋梗塞等の発見・診断にも有用であります。

検査は、放射性医薬品を静脈注射した後1時間ほどお待ちいただいて撮影するだけです、ほとんど苦痛のない検査です。がんの早期発見、がんの拡がりや転移の診断、がん治療後の経過観察のためには欠かせない検査であり、たくさんの方々にご利用いただけるものと確信しております。また、当 PET センターは関西医科大学天満橋総合クリニックと連携しており、PET-CT 検診の役割を担っております。三大生活習慣病（がん・心疾患・脳血管疾患）を始めとする疾病の早期発見や疾患予備軍の発見にも努めてまいります。大学病院の実績と特長を活かし、皆様のご希望に添えるよう努力してまいります。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



【医療安全管理部の活動】



「人は誰でも間違える」

「人は誰でも間違える」と医療従事者から言われたら「ドキッ」としませんか？
 「人は誰でも間違える」に続く言葉は「だから医療事故が起きてもしかたがない」
 ではなく、もちろん「どのようにして未然に防ぐか」です。医療安全管理部の構成
 メンバーは、医師1名、看護師1名、薬剤師1名、事務員2名と小所帯ですが、各部
 署のセーフティマネージャー（安全対策委員）と連携し「医療事故の防止は個人で
 ではなく組織が行うもの」という考えに立って活動しています。

【具体的な活動内容】

- 1) 医療事故防止に関する業務
 - ① ヒヤリ・ハット事例の収集、分析及び管理
 - ② 医療事故防止策の立案、実施、評価
 - ③ マニュアル及びガイドラインの策定
 - ④ 現場の実施点検（巡回等）
 - ⑤ 安全管理の視点での指導、相談
 - ⑥ 各部門、職種間の支援と調整
- 2) 重大な、又は部門を横断する医療事故発生後の対応と、調整に関する事
 - ① 発生状況（事実・背景・要因）の調査と報告
 - ② 患者さんやご家族への説明や対応状況についての確認
 - ③ 当該事故関係者、部門のセーフティマネージャー等への支援
 - ④ 患者さん・ご家族への対応を支援
 - ⑤ 再発防止の取り組み
- 3) 医療安全に関する教育・啓発に関する業務
 - ① 職員研修
 - ② セーフティマネージャーの研修
 - ③ 年間計画、講演会の企画・運営
 - ④ 広報活動
- 4) 医療患者相談

医療安全管理部は、当院の医療従事者一人一人が、「人は誰でも間違える」ならば「医療事故は必ず起こるものである」との「危機意識」を持ち、患者さんに「より良い・より安全な医療」を提供できるように取り組んで参ります。

アクセスマップ



- ・京阪電車「滝井駅」徒歩3分
- ・地下鉄谷町線・今里筋線「太子橋今市駅」（2番出口）徒歩6分



関西医科大学附属滝井病院

〒570-8507 大阪府守口市文圃町10番15号
 TEL 06-6992-1001 (代)
 HP <http://www.kmu.ac.jp/takii>